

ひまわりの声



題字は高森政雄区連会会長

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会

港南区全域の単位自治会・町内会が「区連会」を構成し、 それぞれに多様な地域活動を展開しています。

前号（7月発行）で紹介した7連合に続き、今回も8連合の具体的な活動を紹介
します。（区連会とは、港南区連合町内会長連絡協議会の略、連長とは区連会を
構成する15地区の代表の略）

日野南連合自治会

日野南連合自治会の今日



会長 淡路 伸勝

私たちの日野南連合自治会は、
所属する単位自治会は4つ、世帯
数約1,600世帯で港南区では最も小
さい連合組織です。しかしその反
面、住民間同士のささえあい・連
携をより強固にするいろいろな活

動は“小型組織”であるが故に「顔
対顔」の関係を作りやすいので大
変活発です。

今年度は、日野南連合と日野南
地区社会福祉協議会がともに創立
10周年になり、港南区制40周年と
重ね合わせて、大変意義深い年な
のです。代表的な定例行事は、恒
例になった秋のアート展、冬の子
どもたち対象のお楽しみ会、さら
に、他の連合に見られない、夏に開催
される栄区の自治会町内会も交え
た広域な夏祭りもあります。さら
に加えて10周年の今年は心に残る記
念事業を秋と冬に実施します。

また、この地域では是非ご紹介し
たいのは、要援護者支援対策の活
動組織があります。これは、市の
モデル事業となっている向こう三
軒両隣方式で、「3日間は自給自足」

が基本テーマです。さらにこれを
契機に350名もの方が災害協力員
として手をあげてくれました。

この他、7年前から実績のある防
犯パトロール活動（警察庁から全国
的防犯モデル地区に指定されまし
た）をはじめとして、数多くの福祉
団体や個人でのボランティア活動、
公園の美化活動、通学児童たちの安
全を守る安全パトロール隊、既に53
回も実施されているウォーキング
会・・・等、地域活動が活発な地域
です。活動は、地域住民の“100%
自由な意思と判断”によるものであ
り、いかなる強制もなく、規約など
もないに等しいのです。この雰囲気
こそが、この地域の活発な活動のエ
ネルギーだと感謝と感動の気持ち
を持って、その活動のお手伝いの一
端をさせていただいております。

「ふるさと港南区」づくりを目指します

こんにちは、4月から港南区長に就任した大貫一幸です。

区連会の皆さまにおかれましては、10月10日の港南区制40周年記念式典で多くの方々が表彰されましたように、地域の環境美化・環境保全活動、福祉・防災防犯・ふれあい活動など、様々な地域づくりを進めていただいておりますことを心より感謝いたします。

会報を読んでいただいた皆さまには、区連会の活動をさらに知っていただくとともに、この会報を通して、自治会町内会活動がより活性化されればと思っています。

今後とも地域の皆さまとは引き続き力を合わせ、誰もが住みたくなる「ふるさと港南区」づくりを進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

港南区長
大貫 一幸

ひぎり連合自治会

個別に進化するひぎりの街



会長 上山 進

ひぎり山 赤いドレスの 似あう街

開発後35年、三つの自治会がそれぞれ独自の進化を競っている。

【納涼大会】ひぎり地区の納涼大会は3つの自治会が、1週間おきに順次行事を競う。

「日限山自治会」は大きな御輿や子ども御輿を繰り出し、子ども御輿は近くの高齢者施設で毎年大歓迎を受けている。「港南ブラザ自治会」はNTT自治会とともに子ども中心のお祭りだ。屋台が軒を連れ、ビンゴ、くじ引き、子どもの踊りとにぎやかだ。「西洗自治会」は盆踊り中心の祭りだ。子どもたちも加わった踊りの輪が幾重にもでき、手作りのネプタが子どもたちの人気の的だ。ひぎりっ子たちは毎年お祭りのハシゴを楽しんでいる。

【防災活動】小学校、中学校拠点の防災活動とは別に、各自治会が独自活動も展開している。「日限山自治会」は、災害時に住民が一斉に道路に飛び出し、お互いの安否確認をする方策をテスト中だ。「港南ブラザ自治会」は自前のホースを揃え、震災直後の火災の延焼防止対策を整えた。「西洗自治会」は災害時に住民が我が家の安全を近所に知らせる方法を工夫中だ。連合自治会定例会ではお

互いに報告しあい、良いところ取りを勧奨している。ひぎり地区全域を対象とした活動も盛んだ。

【災害時要援護者対策】ひぎり地区全域を対象に、104名の要援護者宅を70名のボランティア（訪問担当者）が毎月訪問している。連合自治会は補助金を出して支援している。

【地域福祉保健計画】当地区はボランティア活動が盛んだ。社会福祉協議会の呼びかけに53グループが名乗り出た。ただボランティアは「指示されたり、組織に組み込まれたりするのを嫌う。」伸びやかな活動を保証しながら、どう連携を探るか難しい課題だ。



下永谷連合町内会

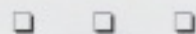
私たちは、誰でも気楽に参加できる親睦行事を地域連携の中心と考えています。



会長 武田 信雄

私たちの下永谷連合町内会は、10の自治会・町内会で構成され、加入世帯数は3,999世帯です。それぞれ環境の異なる中での地域活動として、ふれあいと絆を原点とし、誰もが気楽に参加できる親睦行事を重点とした活動を行っています。その代表的な行事として、私たちの住む町下永谷をもっと知ろう、もっと愛そうという目的が始まり、今年で21回開催の「下永谷の昔を歩く会」があります。旧下永谷地域には歴史ある寺、神社、

地蔵、旧東海道など数々の歴史、名所があります。開催にあたっては、青少年指導員が企画、立案し、毎回違ったコースを歩き、歴史、由来などを説明、紙芝居、クイズ、時には住職さんのお話を聞くなどして、歴史を学びながら旧下永谷地域を歩き、ゴール地点で焼き芋、豚汁を味わい楽しいひと時を過ごします。毎回大勢の子どもたちを含め、二百数十人が参加する社会教育も兼ねた自慢の地域活動だと自負しています。同じく21回開催の高齢者と地域住民との親睦を目的とした「チャリティー芸能大会」の2活動を柱に、ベタンク、グラウンドゴルフ大会等、各々の団体、推進指導員の協力のもと、一体となった活動が特徴かと思えます。



野庭住宅連合自治会

同じ敷地内に2つの連合自治会が存在。その共存と協力の努力がこの地域のパワーの源泉なのです。



会長 木村 妙子

私たちの野庭住宅連合自治会に加入している自治会は4自治会、加入世帯は2,310世帯とこじんまりした連合です。そして同じ敷地内に野庭住宅、野庭団地の2つの連合が重なりあい、共存・協力しています。住民が高齢化してきた現在、大地震や災害に向けて何を？と考えた結果が、避難所に行くのではなく「自宅にいたい」との高齢者の声に応じることでし

た。家具転倒防止の対策をし、3日分以上の水、食料の備蓄を伝え、隣近所の声かけやボランティアの見守り活動を進めて2年、今後は野庭住宅連合住民全体に広めていく意気込みで頑張っています。

代表的な活動の一つとしての連合夏祭りは、役員の人数が少ないにもかかわらず、精力的に活発に動き、各自の役割をきっちりこなします。地域住民だけでなく、里帰りする子どもたちの交流の場になり、近隣住民の楽しみにもなっているようで、規模としては港南区一のやぐらの大きさと人出の多さです。

また、野庭住宅連合自治会の体育指導委員、青少年指導員は、ビンボン大会、グランドゴルフ大会、むかし遊び、こども防災体験キャンプなど高齢者や子どもを巻き込んでの活動をしております。今年にはさらに11月29日に地区社会福祉協議会主催のチャリティバザーに連合共催で「野庭住宅福祉フェスタ」を野庭中央公園で開催します。高齢者に子どもに若者に野庭がふるさとと思える地域を目指します。



芹が谷連合自治会

高齢者や子どもたちに「芹が谷に住んで良かった」と思われたい。これが私たちの努力の目標です。



会長 藤田 誠治

5月17日に第26回芹が谷連合自治会の総会を行いました。総会では、昨年度活動の成果と反省、会計決算報告、今年度の活動計画案と予算案について話し合いました。

今年度の活動計画の特徴は3点あります。一つ目は、各連合で実施されている行事や芹が谷連合6自治会町内会で実施されている行事を参考にして、芹が谷連合自治会としての統一事業実行委員会を設置して、地域住民の連携とふれあいの場づくりの推進を図ることとします。

二つ目は、すでに実施されている自治会町内会もありますが、災害時要援護者対策立ち上げ準備委員会を設置して、安全、安心、明るい街づくりを推進します。

三つ目は、シルバークラブ連合会の活動に役立つためには、連合として何ができるか、シルバークラブ連合会の役員の方々との交流と親睦を深めることとします。

総会では、高齢者や子どもたちに芹が谷に住んで良かったと思われるまちづくりをみんなで推進していくことを確認しました。

また、芹が谷地区のシルバークラブ連合会には6つのクラブがあり、総勢507名が活動しています。各クラブはそれぞれ、スポーツや文化面の活動や友愛の目的で福祉活動を行っています。会員の資格は一応60歳以上となっていますが、平均年齢は75歳くらいです。わが国も暫時高齢化社会に急速なテンポでなっており、高齢者がいかに楽しく生き生きと暮らすことができるか、また互いに助け合って生活を送ることができるかの指針を示す時代となっています。

上大岡連合町内会

子どもたちの熱心な活動のおかげでこの地域に強力な一体感が生まれつつあります。



会長 小石川 幸雄

私たちの上大岡連合町内会は、加入単位自治会が5自治会、加入世帯数は4,511世帯と大規模なものではありませんが、鎌倉時代末から約800年にも及ぶ「歴史と伝統」のある地域であることは、総鎮守である鹿島神社の記録から明白です。長い歴史と伝統を誇る住民の方々と、戦後に移り住んできた住民の方々が、それぞれのアイデンティティを尊重しつつ渾然一体となってこの地域を形成していることが、上大岡連合の「多様性」なのです。

先輩によれば、鹿島神社を中心とする「伝統的行事・活動」、例えば、鷹頭を先頭に神姿の町内の有志、小学校の先生、行政の方々並びに鬼と書いた的円形をかざした年男が鎌倉街道を練り歩く「厄払い行事」、は連綿と続いています。

しかし、こうした「伝統的行事・活動」も急速な時代の変化に対応していくにはなかなか困難です。そこで、平成10年ころに「鹿島神社の伝統的行事・活動」を地域の住民全員が参加して盛大に推進していくべく「世話人会」が結成され、今日に至っております。

正月恒例の「どんと焼き」には、

上大岡小学校、桜岡小学校の学童が多数参加しており、まさに立派な地域のイベントになっています。

さらに、お隣の大久保最戸連合町内会と上大岡商店街、上大岡連合町内会の有志が開始した“大岡川清掃活動”もすでに26年の実績を重ね、地域のイベントとして地域の一体感を実現することに成功しております。

最後に強調したい点は、この2大イベントの“中核”を担っているのは、上大岡小学校と桜岡小学校の学童たちであるという現実です。そして、この現実こそ我々の希望であります。近い将来、「伝統と現代」が融合した“上大岡”が実現するものと確信しております。



日野連合町内会

多彩な単位自治会町内会の活動と合同行事で培われた連帯感が広域事業に生きています。



副会長 田代 孝之

日野連合が発足して45年、その間に当地区は急速に市街化が進み、発展的に分離・独立した単位自治会町内会を核に複数の連合が

誕生しています。現在は7自治会町内会、約4,200世帯の構成です。創立140周年も間近な日野小学校に象徴される良き伝統を受け継ぐ土地柄と、開発地域の新しい世代感覚との融合が特色です。

各単位自治会町内会は、それぞれの持ち味を生かして、防犯・防災、交通安全、環境改善、福祉ネットワーク、高齢者サポートなどの事業活動を活発に行い、夏祭り他各種催し物、趣味・創作の集い、発表会・展覧会、あるいは餅つき、焼き芋、読み聞かせ、花壇づくり等々で会員の親睦と子どもたちとの交流を深めています。

さらに広域の連携事業にも積極的に力を合わせています。例えば、小学校区を単位とした学援隊、ハマロードサポートや美化・環境対策などの活動が日常的に定着し、成果が目に見えるようになってきました。単発のイベントではなく、継続的な実践行動になっているのが自慢です。単位自治会町内会間の絆を強める合同行事では、初夏の“ふれあい子ども祭り”、秋の“日野連合体育祭”が中心です。地区社会福祉協議会との協働により小坪小学校体育館で行うチャリティセールは、独り住まいの高齢者慰問をはじめとした年末助け合いや被災地支援の原資となります。早春には青少年指導員・体育指導員・子ども会を後援して、“北公園でゲームをしよう”大会を開催し、寒さを吹き飛ばします。これらの各種行事で培った連帯感が、さらなる地域課題への取組に、大きな力となっていきます。

野庭団地連合自治会

街を撮ることで街を知り、街を描くことで街を味わいます。展示会場に集まった人々は、こうしてできた作品を見て共感し、そこに郷土愛が生まれます。

連合自治会と社会福祉協議会は、街の魅力を表現した「まち自慢」写真・絵画コンテストを実施しています。

三十数年前、誰も住んでいなかったところに知らない者同士が集まって、にわかになできた野庭団地です。生活が便利だというだけで、懐かしさを呼び起こす記憶は何一つ無く、交わりの少ない街でした。

それが今は、殆どの人に街でのお付き合いがあり、これからも挨拶や声かけで日常生活を充実させたいと望んでいます。これに呼応するかのように樹々も育ち、緑豊かな街になりました。樹々に覆われた散歩道、夕日に輝く銀杏並木……。四季を通じ題材にはこと欠きません。沢山の応募を期待しています。

故赤嶺幸一会長は、昭和50年、野庭団地第二住宅自治会の初代会長に就任し、通算25年間会長を務められ、平成14年からは連合自治会長を兼任されましたが、平成21年10月13日ご逝去されました。享年81歳。

謹んで哀悼の意を表し、生前にいただいた文章を掲載します。
(野庭団地連合自治会)

編集 後記

■本号は8連長の原稿をそのまま掲載しました。連長の日頃の苦勞は想像を超えるものです。皆様の真剣なご感想をお待ちします。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。■区連会会報担当 遠藤良一／中島淑子、編集委員

松田英樹／辻野健治
(横浜市港南区港南中央通10-1
港南区役所地域振興課内
☎ 847-8391 FAX 842-8193)